

| カリキュラムマップ | | | | | | | | | | |
|---------------------|-------------|-----|--|---|--|---|---|---|--|--------------------|
| ◎最も強く関連、○強く関連、△やや関連 | | | | | | | | | | |
| 授業科目 | 科目ナンバリング | 単位数 | DP1 「コミュニケーション力」 | DP2 「問題解決力」 | DP3 「知識獲得力」 | DP4 「組織的行動能力」 | DP5 「創造力」 | DP6 「自己実現力」 | DP7 「多様性創発力」 | DP8 「専門性」 |
| | | | 様々な説明の方法や手段を駆使し、意見の異なる相手との相互理解を得ることができる。 | 新しい視点を持って自ら問題を発見し、最善の解決策を選択し、計画的に実行できる。その結果を多面的に検証し、計画の見直しや次の計画に反映することができる。 | 継続的に深く広く情報収集に努め、取捨選択した上で、知識やノウハウを修得し、関連付け、他者が思いつかない形で活用することができる。 | チーム、組織の目標を達成するために何をすべきか、関係者の利害を複数の視点から幅広く考慮したうえで適切な判断を下し、自ら進んで行動を起こすだけでなく、目指すべき方向性を示し、他を導くことができる。 | 知的好奇心を発揮して様々な専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て科学技術の発展に貢献するような独自のアイデアを発想することができる。その際、関連法令を遵守し、倫理観を持って技術者が社会に対して負っている責任を果たすことができる。 | 自らを高めるため、常に新しい目標を探しており、見つけるとその達成のために最短の道筋を考えてそれをたどるために努力する。失敗してもあきらめず、繰り返し挑戦する。 | 多様性(文化・習慣・価値観等)の相互理解を得て適切に対応しつつ、自分が何を望むか、まわりが自分に何を望んでいるのかを総合的に判断し、行動できる。加えて、複数人の協同により、相乗効果を生み出すことができる。 | 専攻に応じた専門性を身に付けている。 |
| 数学特論 | SG-PM6-1A01 | 2 | △ | ○ | ◎ | | ○ | ◎ | | ◎ |
| 数学特殊論文研修Ⅰ | SG-PM6-1A02 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ | ○ | △ | ◎ |
| 数学特殊論文研修Ⅱ | SG-PM6-1A03 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ | ○ | △ | ◎ |
| 数学特殊論文研修Ⅲ | SG-PM6-1A04 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ | ○ | △ | ◎ |
| 数学特殊論文研修Ⅳ | SG-PM6-1A05 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ | ○ | △ | ◎ |
| 数学特殊論文研修Ⅴ | SG-PM6-1A06 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ | ○ | △ | ◎ |
| 数学特殊論文研修Ⅵ | SG-PM6-1A07 | 2 | ◎ | ◎ | ◎ | △ | ◎ | ○ | △ | ◎ |